

2022年9月9日

成田空港に実証製造された国産 SAF が導入されます！
 ～ハイドラントシステム※1 への国産 SAF 導入は国内初！！～

成田空港では、サステナブル NRT2050 に基づく SAF (Sustainable Aviation Fuel) の受入体制の整備の一環として、新たに第 2 給油センターに陸上搬入施設が完成しました。

この施設を利用して、9 月 16 日に株式会社ユーグレナより、実証製造された国産 SAF「サステオ※2」が搬入される予定です。 国内で実証製造された SAF がハイドラントシステムにより航空機へ供給されることは、国内初の取り組みとなります。



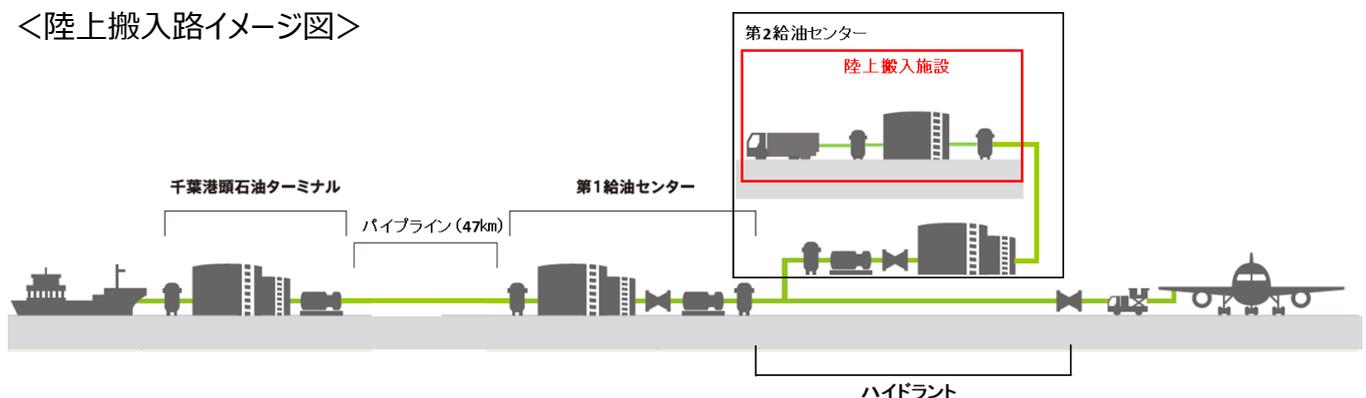
国産 SAF は未だ商業段階の製造に至っておらず、国内で様々な企業が SAF 製造の実証試験に取り組んでおります。日本では、2030 年までに本邦エアラインの使用燃料のうち 10%を SAF に置き換えることが目標として掲げられています※3。SAF の普及促進のためには、国際競争力のある国産 SAF の開発・製造が推進されると同時に、SAF を活用するためのサプライチェーンを構築することが重要になります。

NAA は様々な企業により実証製造された SAF を積極的に受入れ、持続可能な社会の実現に向けて貢献していきます。

<今後の予定> 第 2 給油センターに搬入 (2022 年 9 月 16 日)

成田空港において航空機に搭載(2022 年 9 月下旬)

<陸上搬入路イメージ図>



通常のジェット燃料や輸入 SAF は弊社千葉港頭石油ターミナルにタンカーによって搬入され、パイプラインにより成田空港まで輸送されますが、当該施設を利用することで、実証製造された少量の SAF であってもタンクローリーにより成田空港へ直接搬入することが可能となります。

※1 航空機燃料をタンクから地下配管により、エプロン上の各スポットにある給油口まで送油し、サービサー（給油車）により航空機に給油するシステム。安全、迅速に多量の燃料を給油できる利点があります。

※2 株式会社ユーグレナが製造・販売に取り組む「サステオ」は、使用済みの食用油と微細藻類ユーグレナから抽出されるユーグレナ油脂を原料に、バイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラントで製造されています。



※3 航空の脱炭素化推進に係る工程表（航空機運航分野における CO2 削減に関する検討会）国土交通省航空局（令和3年12月）より



国産 SAF 初 成田空港の給油ハイドラントシステムに ユーグレナ社の SAF 「サステオ」 を導入

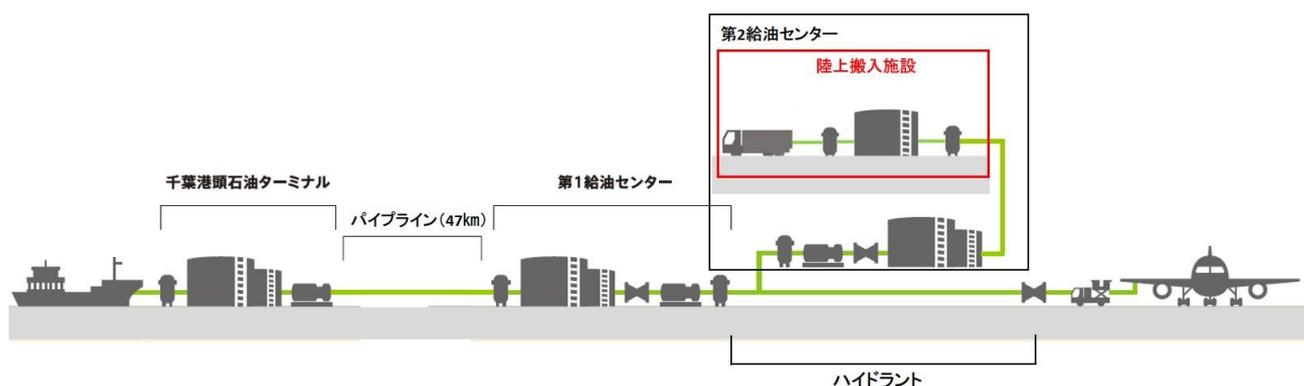
株式会社ユーグレナ

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充）は、成田国際空港株式会社（本社：千葉県成田市、代表取締役社長：田村明比古、以下「NAA」）が設置・運用する給油ハイドラントシステム※¹（以下、「ハイドラント施設」）に、当社が製造・販売する SAF※²「サステオ」※³（以下、「サステオ」）を導入することをお知らせします。なお、国内空港のハイドラント施設に国産の SAF を導入するのは、今回が初の取り組みとなります。



陸上搬入施設

通常のジェット燃料や輸入 SAF は、NAA の千葉港頭石油ターミナルにタンカーによって搬入され、パイプラインにより成田空港まで輸送された後、空港内の地下を走るハイドラントシステムを通じて各航空機に給油されています。成田空港は、サステナブル NRT2050 に基づく SAF（Sustainable Aviation Fuel）の受入体制の整備として、新たに第 2 給油センターにおいて陸上搬入施設の供用を開始しました。今回、当社の「サステオ」は、本施設を利用してタンクローリーにより成田空港へ直接搬入します。



陸上搬入路イメージ図

当社が供給する「サステオ」は、原料に使用済みの食用油と微細藻類ユーグレナから抽出されたユーグレナ油脂等を使用し、当社のバイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラントにて製造し、併設タンクで石油系ジェット燃料と混合した環境負荷の低い燃料で、ASTM D7566 規格※4 に準拠しています。「サステオ」は、燃料の燃焼段階では CO₂ を排出しますが、使用済みの食用油の原材料である植物も、ユーグレナも、成長過程で光合成によって CO₂ を吸収するため、燃料を使用した際の CO₂ の排出量が実質的にはプラスマイナスゼロとなるカーボンニュートラルの実現に貢献すると期待されています。

ハイドラント施設への「サステオ」の搬入は、個別の顧客からの発注に応じて実施してまいります。初回の搬入は9月16日（金）に実施し、今後も新たな発注に応じて順次搬入を進めてまいります。

※1 航空機で使用するジェット燃料を安全・安定的に輸送するために、NAA が設置・運用する給油システム。成田空港内に設置した給油センターから、払出ポンプを使用してエプロン（航空機の駐機施設）に埋設した配管にジェット燃料を送り出し、各給油スポットまでジェット燃料を届けています。

※2 Sustainable Aviation Fuel の略称で、動植物油脂や廃食油等の持続可能な原料により製造された燃料を従来のジェット燃料に混合したもの。従来のジェット燃料と同等の性質と規格認証されており、CO₂ 排出量の削減効果があります。

※3 当社が製造・販売するバイオ燃料の名称で、食料との競合や森林破壊といった問題を起こさない持続可能性に優れたバイオマス原料からつくられています。また、今回供給される SAF は、当社が国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業である「バイオジェット燃料生産技術開発事業/実証を通じたサプライチェーンモデルの構築、微細藻類基盤技術開発」の採択を受けて製造したものです。

※4 当社が微細藻類や廃食油などの生物系油脂を原料として BIC プロセスにより製造した純バイオジェット燃料は、ASTM International（旧 米国材料試験協会 American Society for Testing and Materials）が定める国際規格である ASTM D7566 Annex 6 に準拠しています。

<株式会社ユーグレナについて>

2005 年に世界で初めて微細藻類ユーグレナの食用屋外大量培養技術の確立に成功。微細藻類ユーグレナ、クロレラなどを活用した食品、化粧品等の開発・販売のほか、バイオ燃料の製造開発、遺伝子解析サービスの提供を行っています。また、2014 年よりバングラデシュの子どもたちに豊富な栄養素を持つユーグレナクッキーを届ける「ユーグレナ GENKI プログラム」を継続的に実施。「Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）」をユーグレナ・フィロソフィーと定義し、事業を展開。

<https://euglena.jp>